

氏名	近 藤 捷 嘉		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 612 号		
学位授与の日付	昭和 49 年 6 月 30 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)		
学位論文題目	抗生剤含有生食水による持続的腎盂灌流法に関する 臨床的、実験的研究；特に腎珊瑚樹状結石症例に対 する腎切石術への適用について		
論文審査委員	教授 田 中 早 苗	教授 西 田 勇	教授 砂 田 輝 武

## 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

腎結石，特に腎珊瑚樹状結石に対する腎保存手術においては，術後種々の合併症が問題となり多くの研究が行われている。著者は腎切石術術後における抗生剤含有液による持続的腎盂灌流法について臨床的，実験的検討を行い以下の結論を得た。

1955年から1971年までの17年間に腎珊瑚樹状結石患者は151例である。このうち64例に腎切石術が行われているが，1968年4月以降に術後持続的腎盂灌流法を施行した17例では術後合併症を全く認めていない。しかし，それ以前の非灌流例47例では二次出血2例（うち1例腎摘除術），尿痿形成7例を認めた。

犬の一側腎において抗生剤含有液による腎盂灌流を行うと，血清中，腎組織内，また対側腎尿中にそれぞれの抗生剤を検出した。組織学的には高濃度添加例，あるいはAminoglycoside系抗生剤添加例においてtoxic nephrosisと考えられる所見を得た。

実験的に作成した腎盂腎炎腎に対し腎切半術および腎盂灌流を行うと，非灌流例に比して腎盂炎の著明な改善，腎切開創の治癒傾向および感染の腎内拡散の防止を認めた。

以上の検討から臨床的には本法が術後合併症予防に有用であり，実験的には添加抗生剤は腎毒性の少ないものを選択使用すべきこと，さらに本法が感染の腎内拡散の防止，切開創の治癒傾向促進に有効であることなどを裏付けるものと考えらる。

## 論文審査の結果の要旨

本研究は、腎結石に対する腎保存手術に関する臨床的並びに実験的研究であって、従来術後合併症が極めて多いとされている腎切石術にたいし、術後持続的腎盂灌流法をおこなうことによって、それら合併症を防止し安全な手術をすることができた極めて有意義な研究であると認める。

よって、本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。